高知県立安芸病院
院内報
Vol.５４
２０１１年６月発行
発行人：前田博教
発行所：安芸市宝永町1-32
高知県立安芸病院
編　集：広報委員会
http://www.pref.kochi.lg.jp/~aki/

○東日本大震災　医療派遣報告

安芸病院では、東日本大震災の被災地である宮城県からの要請を受け、宮城県七ヶ浜町の七ヶ浜国際村避難所に医療チームを派遣しました。

【第１班】左上から今井主任（薬剤師）藤島主幹（看護師）塔岡主幹（事務職）野田主査（看護師）今里医長（医師）

医療チームは医師１名・薬剤師１名・看護師２名・事務職１名の５名が1チームで、５月第１週に１チーム、第３週に１チーム、１６日間にわたり１０名を派遣し、約３００名が生活する避難所で整形外科の今里滋宏医長、外科の直木一朗医長を中心に、被災者の診察や健康管理などを行ってきました。

津波の被害地域は、震災後約５０日が経過した時点でも、がれきの山が広がっており、災害の大きさにみな声を失いましたが、それ以外の地域はスーパーも通常営業を行うなど町の機能が回復しつつあり、復興に向かっていることが感じられました。

避難所で生活されている被災者の皆さんは、長期にわたる共同生活に、体力を消耗し、心身ともに疲れが溜まっている様子で、救護所でも風邪や不眠、腰痛などの症状を訴えられる方が多い状況でした。

派遣隊員も短い期間でしたが、寝袋で寝て、お風呂に入らず診療をする中で、災害の過酷さや平時からの準備の大切さを感じ、限られた物資でベストな医療を行う難しさを経験してきました。

安芸病院からの医療チームの派遣期間中に七ヶ浜町の仮設住宅が一部完成し、避難所から仮設住宅への引っ越しが始まるなど、復興に向けて進んでいる様子が感じられました。私たちも被災者の皆さんが、早く元の生活に戻れることを願ってやみません。

高知県でも、今後３０年以内に６０％程度の高い確率で南海地震が起こることが予測されています。安芸病院は災害拠点病院として、今回の派遣での経験を活かし、災害時の医療救護活動の中心的な役割を担えるよう、努力を重ねてまいります。

お悩み相談室

お悩み相談室の第４回目は、皮膚科です。今回は、にきびの悩みについて皮膚科　廣瀬康昭　医長に教えていただきます。

Ｑ　にきびは病気？

Ａ　にきびは尋常性座瘡（じんじょうせいざそう）という皮膚の病気です。原因は過剰な皮脂の分泌、毛穴の出口が角化して詰まる、ニキビ菌の繁殖が主な原因です。

思春期には男性ホルモンが活発になり、上記のような原因を生じやすくなります。成人してからできるにきびには、ストレスや睡眠不足、食生活の乱れが誘因となります。治療としては主に抗生剤の内服や抗菌薬の外用、皮脂の分泌を抑制する外用剤などがあります。

予防法として、まずは１日２～３回、石鹸を使ったぬるま湯での洗顔が第一です。他には額などににきびが多い人は前髪などが顔にかかると刺激で悪化したりすることもあるので、髪型にも気を配りましょう。

最後に、規則正しい生活、食生活を心がけてください。

○イベントのお知らせ

平成２３年度
第１回　ふれあい医療教室

日　時　平成２３年７月１６日（土）
１３時３０分開場　１４時開演

場　所　安芸市民会館　大ホール
【座長】高知県立安芸病院院長
前田　博教　先生

テーマ　１．災害派遣医療チームの被災地での活動報告
高知県立安芸病院　整形外科医長
今里　滋宏　先生

２．大地震に備える健康管理
高知大学医学部外科学（外科２）
講座教授　渡橋　和政　先生

＊入場は無料です。皆さまお誘い合わせのうえ、ぜひご参加ください。

○花の植え替えをしました！

約７～８年前から始まったこの活動は、病気と闘っている患者さんの気持ちを少しでも癒やせたらという思いを込め、6月のはじめ頃と12月のはじめ頃の年２回行っています。

場所：内科前花壇

プロの花壇のようには管理が行き届きませんが、少しでもみなさんの気持ちが休まってもらえたら幸いです。

＜記事：環境対策委員会＞